

オランダにおける知的障がい者柔道 (Special Needs Judo) 視察報告

(3000501)

平成 30 年 4 月 30 日
わらしべ会 辻 和也

レポートの構成			
1 章	概要	5 章	試合進行、ルール
2 章	スケジュール	6 章	感想、考察
3 章	参加人数	7 章	写真
4 章	大会運営について	※別に動画、追加資料も整理し報告する。	

1) 概要

●大会名

- Special Needs World Judo Games & Ben Van der Eng Memorial Tournament Beverwijk XX
「スペシャルニーズ柔道世界大会&ベン・ファン・デ・エング記念柔道大会 第 20 回大会 in ベーフ
ェルウェイク」

- 本大会は「スペシャルニーズ柔道世界大会」と「Ben Van der Eng 記念柔道大会」の二部構成になっている大会である。
- Beverwijk (ベーフェルウェイク) : 開催地の名前。
- XX : 第 20 回大会。



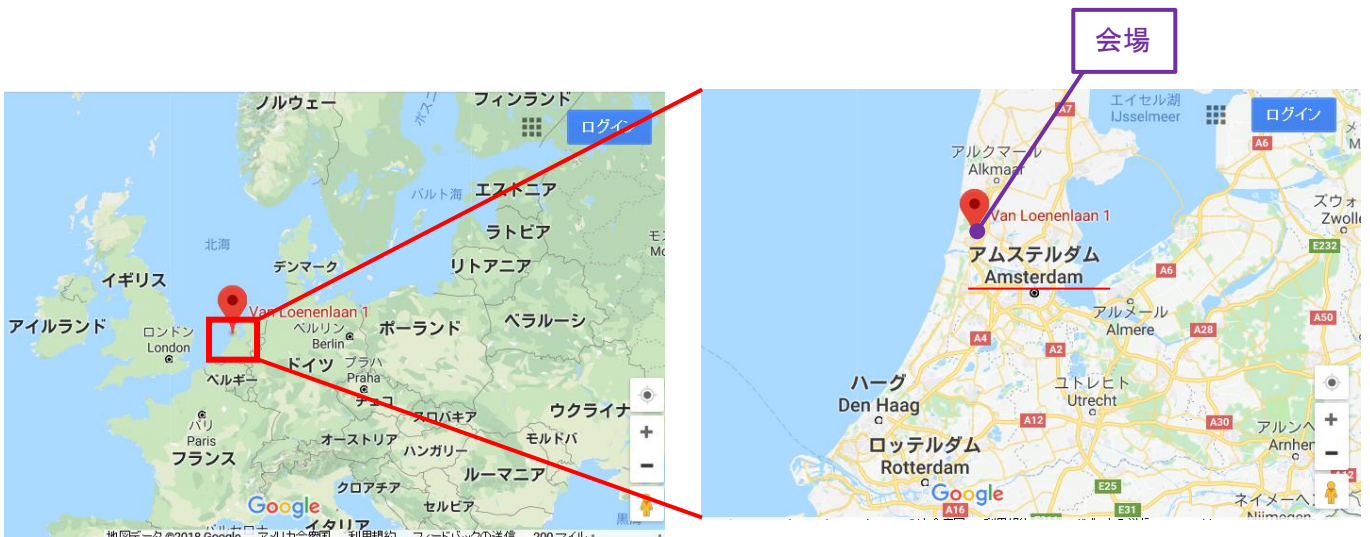
- 日程 2018 (平成 30) 年 4 月 14 日 (土)、15 日 (日)

- 視察参加者 山崎正義、辻和也

- 会場 (場所)

- Sporthal De Walvis (Van Loenenlaan 1, 1945 TB Beverwijk, The Netherlands)
「デ・ヴォルビス体育館」

- オランダの首都アムステルダムの北西約 30km に位置するファンルーネンラーンという場所にある。



2) スケジュール

●今回のスケジュールは以下のようなものであった。時系列に沿っておおよその流れを説明する。

4月11日(水)	午前	・10:25 関空発
	午後	・15:10 アムステルダム着
	夕	・特別支援学校で柔道の合同練習
4月12日(木)	午前	・視察
	午後	・山崎氏現地コーチに形指導
	夕	・ティホ(オランダ)、トマス(スウェーデン)と打合せ、食事
4月13日(金)	午前	・移動
	午後	・計量及び合同練習
	夕	・17:00~18:00 ルール説明
4月14日(土)	午前	・9:00~12:00 「Special Needs World Judo Games」 試合 (レベル1~3)
	午後	・13:00~17:30 「Special Needs World Judo Games」 形の大会
	夕	・20:00~23:00 親睦会 (アサンブルグ城)
4月15日(日)	午前	・9:00~12:30 「Ben van der Eng Memorial」 morning session 試合 (レベル1~5、16歳未満) ・12:30~13:30 昼休み (バンド演奏など)
	午後	・13:30~17:30 「Ben van der Eng Memorial」 afternoon session 試合 (レベル1~5、16歳以上)
	夕	
4月16日(月)		・14:40 アムステルダム発
4月17日(火)		・8:35 関空着

4月11日(水)

○15:10 アムステルダム(スキポール空港)着

○特別支援学校で合同練習

・空港から障害者の特別支援学校と思われるところに案内され体育館で合同練習。対象を分けて3部に分かれていた。

・17:30~18:15 「就学前から小学校低学年くらいのクラス」

- ・15名程度。障害のない児童も含まれていた。
- ・鬼ごっこのような遊びを取り入れ、走り回って動くことを中心とした内容。柔道については所々受身などを取り入れていた程度。



・ 18 : 30～19 : 30 「小学生から 10 代後半のクラス」

- ・ 20 名程度。軽度の知的障害児中心。プログラムはほぼ低学年クラスと同じ。
- ・ 途中からブラジルのチームが合流して 50 名ほどに。

・ 19 : 30～20 : 30 「10 代～40 代のクラス」

- ・ 前クラスに続いて 60 名程度が参加。
- ・ 内容は前クラスとほぼ同じだが、寝技の乱取りも取り入れられていた。
- ・ 寝技のように向き合い組み合ってお互いの帯を取り合うというゲームのような内容もあった。
- ・ 明日からの試合に備えて、ルール説明（主に禁止技の説明）が実演とともに行なわれた（※）。

○（※）禁止技の説明について

- ・ 明日からの大会に備え、禁止技の説明が実演とともに行なわれた。写真のようにその状態を示しながら、指導者が「これは OK か？」と聞くと、参加者から「NO！」という答えが返ってくる。
- ・ おそらく何度もこうした試合に出ているからだろう、参加者はだいたい理解しているようであった。



けさ固めでは、腕を首に巻いてはいけません。



膝をついて投げてはいけません。



大腰などで手を奥に回すのいいが、首に手を回すのいけません。

- ・ この時実演されていた禁止技は以下のとおり。

- ・ 首投げは×。
- ・ 背負い投げなどで膝をついて投げるのは×。
- ・ 捨て身技（実演されたのは谷落し）は×。
- ・ 絞め技、関節技は×。
- ・ 首を巻くように奥襟を取るの×。
- ・ けさ固めで手のひらを畳に置いていても、巻きつけるようにしていたら×。



4月11日、3つ目のクラス
で全体写真。

4月12日(木)

- 14:00~15:30 山崎氏による現地コーチへの形の指導。
- 17:00~18:30 ティホ (オランダ)、トマス (スウェーデン) と打ち合わせ。

4月13日(金)

- 午後会場入りすると各国のチームが続々と現れ、受付後、計量が行われた。
- 15:00~ 合同練習
 - ・予定では「ディビジョニング・ワークショップ」とあったが、実際には試合前日入りしてきたチームの合同練習。ディビジョニングのような審査をする指導者の姿はなかった。
 - ・前日のプログラムと同じようなペアになって競うゲームのようなものや前まわり受身などが行なわれた。



計量の様子。



寝返りして逃げる相手を引き寄せて返す。



向かい合って組み合い、帯を取ったほうが勝ち。



大腰のような体勢から、お互いが腰を前に突き出すのを競う。

○18:00～19:30 コーチが一室に集まりルールと禁止技の説明

- ・禁止技の説明、審判の判定の上での留意点などが説明されていたようであるが、私（辻）はちょうど大会委員長の Henk 氏に会計資料に関する説明を別室で聞いていたので、内容は分からない。山崎氏が参加していたのでそちらの報告にゆずる。
- ・最後にこの大会にとって大切なものは何か？「safety（安全性）」「fun（楽しさ）」「competition（勝敗）」が講師から各国のコーチに問われ、この大会では「安全性と楽しさが大切である」ことが確認された。



コーチ、審判が集められ、実演で説明された。



けさ固めでは、手を頸に回してはいけない。

4月14日(土)

○9:00～12:30 「Special Needs World Judo Games」試合（レベル1～3）

- ・名簿によれば 112 名が参加している。
- ・レベルは 1～3。
- ・知的障害だけでなく、脳性まひ、脊髄損傷の車椅子の障害者が寝技から始める試合も多く見られた。
- ・翌日も同様だが、試合後リーグごとに表彰台のところに来て一人ずつメダルを渡すので、表彰にはそれぞれ約 1 時間かかっていた。
- ・試合の進行方法は翌日の試合と同じなので別章で記載する。



○13:30～17:30 「Special Needs World Judo Games」形の大会

- ・名簿によれば 43 組が出場している。
- ・知的障害のある人どうしのペア、知的障害のある人と指導者のペアなどがあった。脊髄損傷の人の座位（あぐら）での形も披露された（受けは指導者）。
- ・試合の進行方法などは別章に記載する。

4月15日(日)

○9:00～12:30 「Ben van der Eng Memorial」morning session

- ・レベル1～5の16歳未満の人の試合。90名が参加。
- ・試合の進行方法などは別章に記載する。

○12：30～17：30 「Ben van der Eng Memorial」 afternoon session

- ・レベル1～5の16歳以上の人の試合。216名が参加。前日からの参加者も多く見られた。
- ・試合の進行方法などは別章に記載する。

4月16日(月)

○14：40 アムステルダム発

3) 参加人数

●参加者総数（実人数）

	国	参加者	参加道場・クラブ数
1	ベルギー	12	3
2	ブラジル	14	1
3	クロアチア	2	1
4	英国	39	14
5	フィンランド	15	1
6	ドイツ	11	2
7	オランダ	181	29
8	ノルウェー	2	1
9	ルーマニア	7	2
10	ロシア	6	2
11	スウェーデン	43	9
12	スイス	12	1
13	USA	2	1
	参加者実数計	346	67

●プログラム別参加者数

4月14日(土)	午前	①Special Needs World Judo Games 2018	112名
	午後	②SNWJT 形の試合	43組
4月15日(日)	午前	③Ben van der Eng 記念大会(16歳未満)	90名
	午後	④Ben van der Eng 記念大会(16歳以上)	216名

(注)

①Special Needs World Judo Games 2018	→レベル1～3のアスリートの試合
②SNWJT 形の大会	→形の大会
③Ben van der Eng 記念大会(16歳未満)	→16歳未満のアスリートの試合。レベルは1～5
④Ben van der Eng 記念大会(16歳以上)	→16歳以上のアスリートの試合。レベルは1～5

※参加者はそれぞれ複数の試合に出ている（①と②、①と④など）者も多かった。

4) 大会運営について

4-1 スタッフ



- ・ Henk 氏 (大会委員長)
- ・ 普通学校の校長をしていたとのこと。柔道は少しだけだがやっていた学校でも教えていた。障害のある子の柔道指導を頼まれて始めるようになった。



- ・ Tycho van der Werff 氏
(これまでの私のレポートでは Tycho を「チコ」と記述していたが実際の発音にしたがって「ティホ」と記述する。)
- ・ 大会の実質的なリーダー。参加者名簿管理、各国との連絡、試合進行などはこの人が担当。
- ・ スペシャルオリンピックス世界大会 (米ロサンゼルス) でもスウェーデンのトマス氏とともに大会のリーダー役を担っていた。
- ・ 職業は学校、地域のクラブチームでの柔道の指導員。



- ・ Jenny Koster 氏 (女性)
- ・ 大会前日のコーチミーティングなどで実演して解説していたほか、審判団のリーダー的役割を担っていた。



- ・ Christel 氏 (女性)
- ・ Tycho の奥さん。大会では会計を担当していたようである。



- ・ フェイスブックに UP されていた準備会議の様子。

4-2 会計資料

- 今回大会運営に関する会計資料が手に入ったので別紙として添付する。
- ・これは大会委員長 Henk 氏からもらったもので、もともとオランダ語のものを項目の説明をしながら、Henk 氏が英語に直したものを辻が日本語に整理して書いたものである。
- ・細かい解釈に間違いがあるかもしれないが、おおよその大会の会計規模が把握できるものと思う。

4-3 スタッフ用大会準備資料

- 後日、大会準備に関する資料（スタッフのレジユメのようなもの）も英語になおして送ってもらえることになっているので、入手次第報告する。

4-4 申し込みと事前情報

- ・申込用紙はチーム全体と参加者の一覧（試合、形）に別れていて、参加者に関する事前情報はここからある程度得られるようになっている。

○チーム全体の用紙に記載する情報は以下のとおり。（別紙）

- ・クラブ名、国、代表者（名前、電話番号、メールアドレス）
- ・到着する飛行機の便名、到着時間
- ・帰国する飛行機の便名、出発時間
- ・宿泊するホテル名、住所
- ・コーチ（人数、名前）
- ・参加者数、参加費総計（SNWJG 試合参加費 1 人 1 0 ユーロ、SNWJG 形参加費 1 組 1 5 ユーロ、Ben 大会参加費 1 人 5 ユーロ）

○参加者一覧（試合用と形参加用がある）

- ・試合用の一覧を日本語で示し、例を書くとき下記のような用紙である。（赤字は記入例）

寝技、立技の
どちらから始めるか？

No.	氏名	Tシャツ サイズ	SNWJG 参加の有無	Ben 大会 参加の有無	性別	年齢	体重	レベル	寝技 立技	級 段	障害	備考 留意点
1	Kazuya Tsuji	L	有	有	男	30	65	2	立技	1 級	知的障害	
2												
3												
4												

- ・以上のような申し込み用紙から得られる事前情報とこれまでの実績から本大会ではディビジョニングを行なうことなく、試合を始めたものと思われる。

- ・形参加用の一覧を日本語で示し、例を書くと下記のような用紙である。(赤字は記入例)

No.	取り		受け		形 カテゴリー	障害	備考
	氏名	Tシャツ サイズ	氏名	Tシャツ サイズ			
1	Tsuji	L	Yamazaki	L	Class 6		投の形
2							
3							
4							

- ・形の試合は「Special Needs Judo Foundation」の形のガイドラインによると以下のように分かっている。

- ◆形のカテゴリーは「投の形」「固の形」「その他（柔の形、極の形、護身術、投の形）」
「独自（self-defined）の形」に分かれている。
- ◆「投の形」はクラスが1～6。1がレベルが高い方。
- ◆「固の形」はクラスが1～6。1がレベルが高い方。
- ◆「その他」と「個別」は1クラス。

- ・審判は1つの試合場に4名。主審1名、副審2名、待機1名が交替しながら行う。
- ・各試合場には色の違う風船が上げられていて、テーブルも同じ色に合わせられている。アスリートは自分の参加者カードのようなものがあり、そのカードの色が自分の試合場であることを分かりやすく知らせている。
- ・各試合場のデスクには、立技から始めるのか、寝技から始めるのか示すカードがあり、スタッフが資料に沿ってそれを審判に示すことで、どのポジションから始めるのかが審判に分かるようにされている。
- ・また、耳と目の描いたカードもあり、同じようにそれを審判に示すことで、アスリートに視覚障害や聴覚障害もあり、それに対する配慮が必要であることが分かるようにされている。



各試合場の様子。



テーブルに色の違う風船が設置されている。



各試合場のスタッフ席。スコアボードとタイマー、右のようなカードが備えられている。



どのポジションから始めるのかを知らせるカード。



視覚障害や聴覚障害があり配慮が必要であることを審判に知らせるカード。

5-2 形の試合について

- ・形の試合は、私自身もあまり目にすることがなく興味深かったが、形の内容、実演する形の数が違うこと、受けが指導者であるペア、独自の形を行なうペアなどがいて、採点基準がはっきりせず、終了後審査員が集められた席でも「どうやって審査するのか」といった議論が行なわれていた。

- ・大会運営の章で記述したとおり、「Special Needs Judo Foundation」の形のガイドラインにそって、おおよそのクラス分けの基準が示され、各クラブの代表は申込用紙でクラスを申請する。その申請された事前情報をもとにグループが分けられている。
- ・そのグループごとに1つの試合場で審査を行い、採点して順位をつける。
- ・本大会では12グループで、少ないグループは1組、多いグループでは10組。これを組数が均等になるように4つに分けられ、4試合場で行なわれた。
- ・審査員は各試合場に5名。

SN World Judo Games Kata Tournament								
No.	TORI		UKE		Kata Category	Country	score	plaats
	First name	Surname	First name	Surname				
Appreciation identical to mainstream kata.								
Nage-nō-kata class 1		3 series	Tori is SN level 1	Uke is level 1 or mainstream				
1	Dave	Bleser	Shurensley	Verberne	nage 1	NED	324	3
2	luca	Giellissen	patrick	Jaspers	nage 1	NED	343	2
3	luna	Giellissen	patrick	Jaspers	nage 1	NED	358	1
Appreciation as in dan graduation. Judge what is correct instead of looking for errors. Modifications to be reported to main judges.								
Nage-nō-kata class 2		3 series	Tori is SN level 2	Uke is SN with the same level as tori.			score	plaats
1	Sanne	Simons	Thomas	Schepen	nage 2	NED	418	1
2	Dion	Sassen	jim	vd Broek	nage 2	NED	415	2
3	Alan	Tjong	Matthijs	Schrana	nage 2	NED	387	3
4	Matthijs	Schrana	Alan	Tjong	nage 2	NED	376	4
Appreciation as in dan graduation. Judge what is correct instead of looking for errors. Modifications to be reported to main judges.								
Nage-nō-kata class 3								

「投の形のクラス1」というカテゴリーであることを示している。

「取りはレベル1」であることを示している。

「受けはレベル1もしくは健常者」を示す。

↑形のグループを示す表。取り・受けの名前、カテゴリー、レベル、国名が示され、集計されたスコアを記載するようになっている。

Nage-no-kata												
3	Catogorie											
4	Naam Tori:				Regulier			Aangepast				
5	Naam Uke				Regulier			Aangepast				
7	Techniek	Beoordeling									Cijfer	Totaal
9	opening	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
Te-waza Serie 1												
11	Uki-otoshi	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
12		Kumi-kata / Tsukuri / Kuzushi / Kake / aanw. Uke / Rol uke / Realistisch										
14	Seoi-nage	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
15		Kumi-kata / Tsukuri / Kuzushi / Kake / aanw. Uke / Realistisch										
17	Kata-guruma	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
18		Kumi-kata / Tsukuri / Kuzushi / Kake / aanw. Uke / Realistisch										
Koshi-waza Serie 2												
21	Uki-goshi	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	



↑形の審査員に渡される採点表

- もらったデータによれば、採点表は「投の形」「固の形」「独自 (self-defined) の形」「投の形 (すべて行なう)」の4つのシートが用意されている。
- 技を始める前の段階から、それぞれの技について、1～10点で審査される。10点が高いほうで、おおよそ7点を基準に採点しているケースが多かった。
- 表のとおり技ごとに、組み方、作り、崩し、掛けなどの採点の視点が示されているが、リーダーの審査員からは「全体の印象で採点したらいい。」というアドバイスだった。
- 同じグループでも、行なう技、ペアの組合せ (指導者が入るなど) が違い、採点基準がはっきりしないようであった。
- すべての審査後、審査員が集まり、このことに対する議論が起こったが、最後は「まだまだこうした話し合い自体が大切である」といった結論で終わり、こうした整理が途上であることを感じさせた。



会場に並んで審査する審査員



立ち位置を示すシートを置く組もあった。



あぐらで向き合っを行なう独自の形もあった。



規定の形にこだわらず、実力に応じた
安全なやり方で行っていた。

6) 感想

- 大会中、印象に残ったことなどを箇条書きにまとめる。
 - ・まず参加者数の多さに驚いた。スペシャルオリンピックス世界大会（米ロサンゼルス）で、知的障がい者が各国でどの程度柔道をしているのか聞いた際、「うちの国では100～200人程度はいて、国内でも大会をやっている。」という国が多くあったが、今回それを目の当たりにした。
 - ・また、ほとんどの国がいくつもの道場、クラブから来ているのを見て、諸外国の知的障害者柔道のすそ野の広さを実感した。
 - ・本大会の開催地がオランダであることからオランダの参加者、参加クラブ数が多いが、おそらくこれが別の国で開催されている大会であれば、その国の柔道アスリート、実施クラブはもっと多いに違いない。
 - ・大会中、それぞれの国で主催される予定の知的障がい者柔道大会のチラシを目にした。チラシを見ただけでもスウェーデン（2019年5月30日～6月2日）、ルーマニア（SOの大会）、イギリス、スイス（SOの大会）などが計画されているようであった。
 - ・ディビジョニングが実質行なわれず、大会前のディビジョニングの実施の仕方（プログラム、採点方法、記述用紙など）の情報が取れなかったのは残念である。
 - ・ルールについては、禁止技とその運用（反則負けは出来るだけ取らず、直接指導し理解を促す）という点は、SO ロサンゼルス大会で見たのと同じである。
 - ・審判員の基準については、このオランダの大会では、障害者柔道に特化した基準はなさそうである。日常柔道の審判をしている人たちが招集されて、これまでのこうした大会の経験で行なわれていたに過ぎないようである。この点についてフランス等では指導員、審判員に障害に特化した研修と基準があると聞くが、それについては今後の課題としたい。
 - ・10数年前に当わらしべ会から車いすの人とイタリア、ドイツの大会に参加したことがあるが、その時は、車いすの人の参加はなかった。また、SO ロサンゼルス世界大会でも車いすの参加者はいなかった。しかし本大会では結構いて、「肢体不自由者の柔道」に対する可能性もあらためて感じられ、大変刺激を受けた。
 - ・本大会では試合進行などにおいて、障害に対する配慮が随所に見られた（形の独自の展開、障害を示すカードなど）が、こうしたことは大会が回を重ねるごとに出来てきたものに違いない。今後日本で大会を開催する場合でもおおいに参考にしたい。

最後に

このレポートは実際に見たようす、もらった資料、大会中聞き取ったことなどをもとに、それぞれを照らし合わせ、まとめたものである。わたしの英語力が十分でなく、一部の情報に誤解が生じている可能性は否めない。これについては今後も少しずつ情報収集していくなかで修正していくしかない。

しかしながら、2015年SO世界大会（米：ロサンゼルス）のレポートよりは、大会運営、試合進行に関して一定の情報が収集され整理されたものと思う。今後の日本での大会運営の一助になれば幸いである。

大会開催中、多忙にもかかわらず、丁寧に説明してくれたティホ氏、ヘンク氏には感謝したい。

最後に、一緒に参加した山崎氏、この視察の機会を与えていただいた全日本柔道連盟のみなさまにはあらためて感謝申し上げたい。

7) 大会の様子 (写真)

●本文で補えなかった説明を写真で補足的に説明する。

※一部の写真はフェイスブックから引用した。



会場外観



大会本部



合同練習前



合同練習のようす。



試合のようすと準備する参加者



車いすの参加者も 10 名近くいて、寝技から始まる試合も多く見られた。



形の試合



寝技による形もあり、採点基準はまだ統一したものはなさそうである。



4~5名のリーグ形式で試合が行なわれ、1位、2位、3位その他、参加者全員にメダルが贈られるのはS0と同じ。



2日目の大会ではメダルではなく、トロフィーが贈られた。

●脳性まひをはじめ、脊髄損傷の参加者も結構見られた。



● 試合進行



試合前の準備室。SO ロス大会に比べればやや狭い。



試合に出る前に、一旦ここに集められ、順番を待つ。



アスリートに渡される参加証。色分けされて自分の試合場が分かるようになっている。



医療班。数名運ばれたが、打ち身程度で、大会中大きな事故はなかった。

● 合同練習（プログラム）

- ・ 合同練習では初日からだいたい同じようなプログラムが行なわれた。



下で横になっている人がみんなで転がって上の人を移動させる。



相手の帯を取ったほうが勝ち、という寝技のゲーム。

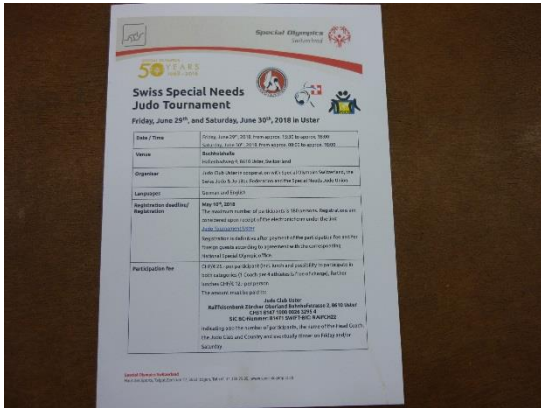
●その他



風船でかたどられた表彰台。



2日目のトロフィー。順位によって大きさが違う。すべての人がもらえる。



大会中、各国が自国で開催する大会の案内を配っていた。



表彰後、トロフィーを自慢するアスリートたち。(フィンランドのチーム)



同じくトロフィーを持って記念撮影。(ブラジルのチーム)